

(様式1)

教育研究業績書		
		2022年5月1日
研究分野		学位
地域看護学、公衆衛生看護学		修士（教育学：明星大学大学院）
研究内容のキーワード		
虐待防止、健康づくり		
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1. 教育方法の実践		
公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ （2年次後期必修科目）	2013年9月～	視聴覚教材等を活用。事例を活用した小グループでの討議を取り入れた授業方法
公衆衛生看護活動展開論Ⅰ（3年次後期選択科目） 公衆衛生看護活動展開論Ⅱ （4年次前期選択科目）	2016年1月～	保健師選択履修生が実習での理解が深まるよう、支援技術に関する演習を取り入れた授業方法
公衆衛生看護学実習Ⅰ（3年次後期選択科目） 公衆衛生看護学実習Ⅱ （4年次前期選択科目）	2015年4月～	実習要項の作成。実習記録の作成。オリエンテーションの実施。各実習クール毎に学生を受け持ち、実習指導を実施。
総合実習（公衆衛生看護）（4年次後期必修科目）	2013年9月～	実習要項の作成。実習記録の作成。地域包括支援センター、保健センター、成人を対象とする健診センター、小中学校での実習を担当し、実習指導を実施。
基礎ゼミナール（1年次前期必修科目）	2013年4月～	学生5～6名を担当。活発なグループ討議ができるように配付資料やレジメを活用。主体的な学習のための環境を整備。
卒業研究（4年次通年必修科目）	2013年4月～	学生4～6名を担当。看護に関連する研究課題を見出し研究過程を経験することにより、研究論文作成の基礎を学べるように指導。また、看護師及び保健師国家試験に関する学習のサポートを実施。
療養支援看護実習（4年次後期必修科目）	2016年8月～	実習施設に関する資料を作成し、実習施設オリエンテーションを実施。学生6名を担当し、チームとしての協働ができるよう実習をサポート。
患者学（1年次後期選択科目）	2018年9月～	病気を持つ当事者・家族をゲストスピーカーとし、当事者・家族の語りから自身の看護師像を見いだす授業
2. 作成した教科書、教材		
看護専門用語かるた	2012年10月～	看護学生が興味・関心を持ち学べる自己学習教材として、看護の場面で用いられる専門用語かるたを共同研究者と共に作成した。
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		
5. その他		
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1. 資格、免許等		
看護師	1984年5月	
保健師	1985年5月	
精神保健福祉士	2003年4月	
2. 所属学会		
日本高齢者虐待防止学会	2005年6月～	
日本公衆衛生学会	2012年4月～	
日本公衆衛生看護学会	2015年4月～	
東京女子医科大学看護学会	2016年4月～	
子ども虐待防止学会	2020年4月～	
3. 実務の経験を有する者についての特記事項		
狭山市柏原地区「健康ひろば」への参加・協力	2013年4月～ 2020年3月	対象地区の住民地区組織活動に学生とともに参加し、健康講話・血圧測定等を実施。
狭山市柏原地区防災キャンプへの協力	2013年8月～ 2019年5月	狭山市柏原地区主催の事業に、看護学部学生とともに参加・協力
看護学部学生サービス委員会主催講演会講師	2013年7月	「喫煙について」の講義を担当
埼玉石心会病院 看護研究学習会講師	2014年4月～ 2015年3月	8つのグループの看護研究を担当
狭山市健康長寿埼玉プロジェクト「おりびい健康マイレージ」事業の講座講師等の支援	2017年5月～ 2020年3月	狭山市主催の事業に、看護学部学生とともに身体測定会・講座講師等での支援
東京女子医科大学看護学会 実行委員	2017年10月～ 2019年10月	毎年 実行委員を担当

認知症サポーター養成講座	2017年10月～ 2019年10月	狭山市在住在勤在学者を対象に地域包括支援センターと連携して講座を開催
さやま市民大学西武文理大学連携「健康づくり・サポーター養成講座」講師	2017年10月～	看護学部学生とともに講座に参加。講座講師としての支援。
狭山市柏原小学校での防災教室への協力	2019年6月～	狭山市柏原小学校4年生の授業の一環としての防災教室に、看護学部学生とともに参加・協力
4. その他		

(様式2)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1. 実践から学ぶ高齢者虐待の対応と予防	共著	2010. 6月発行	日本看護協会出版会	高齢者を介護するアルコール依存症者への看護について事例を挙げ示した。 監修者：高崎絹子。編集：岸恵美子，小長谷百絵，小野ミツ。分担共著者：吉岡幸子，尾崎美恵子他。
2. 事例から学ぶアディクション・ナーシング～依存症・虐待・摂食障害などがある人への看護ケア	共著	2009. 11月発行	中央法規出版	地域におけるアディクション事例として、地域包括支援センター保健師の高齢者虐待への対応についての事例を挙げ示した。 編集者：松下年子・吉岡幸子・小倉邦子。分担共著者：尾崎美恵子他。
(学術論文)				
1. 子ども虐待予防の支援における多職種連携の課題に関する文献検討	共著	2021年3月発行	東京女子医科大学看護学会誌第16巻第1号	子ども虐待予防の支援における多職種連携の課題を明らかにし、今後の方策について検討した。 共著者：尾崎美恵子，清水洋子。
2. 病棟から在宅への移行期に焦点を当てた継続看護についての看護学生の意識	共著	2013年3月発行	埼玉医科大学短期大学紀要第24巻	A短期大学で在宅看護実習終了後に、学生が病院から在宅への移行期の継続看護について、病棟看護師・訪問看護師として必要と考えた具体的な指導を明らかにした。 共著者：篠原実穂，尾崎美恵子。
3. 高齢者虐待防止に必要な看護基礎教育の授業とは～授業終了後の学生のアンケートより～	単著	2012年7月発行	明星大学大学院人文学研究科年報VOL10	先行研究の結果をもとに授業を実践し、授業終了後の学生のアンケートをまとめた。
4. 教員と学生の思いの違いに注目した指導方法アセスメントシートを活用して～	共著	2012年3月発行	埼玉医科大学短期大学紀要第23巻	学生とのかかわりや指導場面において教員が気になった場面（情意領域）から教員－学生間の思いの違いを認識し、意図的な学生指導を行うことからの学びや今後の指導課題を明確にした。 共著者：関口恵子，吉新典子，金子吉美，西土泉，尾崎美恵子他
5. 「社会活動」履修後の活動状況－自分のできることに意識の変化－	共著	2012年3月発行	埼玉医科大学短期大学紀要第23巻	A短期大学で1年次に「社会活動」を履修した2学年の学生の「社会活動」履修後の社会活動や社会貢献の実施状況や震災を受けて学生の社会活動・社会貢献に対する考えや行動の実態を明確にした。 共著者：吉新典子，伊藤真弓，西土泉，堀順子，尾崎美恵子他
6. 看護基礎教育における高齢者虐待防止に関する授業の一考察	単著	2012年1月発行	明星大学通信制大学院研究紀要－教育学研究 VOL11	3年課程の看護師養成校の高齢者虐待防止に関する授業担当者に対して調査を行い、今後の高齢者虐待防止に関する授業内容について検証した。
7. 診療所で働く看護師等スタッフの高齢者虐待に関する認識と行動	共著	2011年3月発行	埼玉医科大学短期大学紀要 第22巻	診療所で働く看護師等スタッフに高齢者虐待に関する認識と行動に関する調査を行い、今後必要な支援について分析した。 共著者：尾崎美恵子，吉岡幸子，篠原実穂，内田久子，松下年子。
(学会発表、講演など)				
1. COVID-19下で健やかな生活を送るための予防対策に関する実践－A大学における学校保健実習の取り組みの成果と課題－	共著	2021年1月	第9回日本公衆衛生看護学会学術集会	COVID-19下でも健やかな生活を送るために、学校保健実習の一環として、A大学での感染予防対策を構築し、学生、教職員と情報共有し、周知徹底をはかった。 共同研究者：尾崎美恵子，神庭純子，伊藤千春，飯塚ちひろ。
2. 保健師実践能力を育成する教育プログラムの検討－地域ボランティア活動に参加した学生のフォーカス・グループインタビューから導く学びの内容－	共著	2021年1月	第9回日本公衆衛生看護学会学術集会	地域ボランティア活動に参加した学生のフォーカス・グループインタビューから保健師実践能力を育成する教育プログラムについて検証した。 共同研究者：神庭純子，飯塚ちひろ，尾崎美恵子，伊藤千春。
3. 保健師実践能力を育成する教育プログラムの検討－A大学卒業後の保健師のフォーカス・グループインタビューから導く現状と課題－	共著	2020年1月	第8回日本公衆衛生看護学会学術集会	A大学卒業後の保健師のフォーカス・グループインタビューから保健師実践能力を育成する教育プログラムについて検証した。 共同研究者：神庭純子，尾崎美恵子，伊藤千春，飯塚ちひろ。